

平成20年度かかりつけ歯科医療事業

主催：(社)東京都中野区歯科医師会
後援：中野区／中野区社会福祉協議会／中野区医師会・薬剤師会・歯科技工士会

区民イベント 第5回 区民のための「お口の健康講座」報告



12:50 開場

13:10 開演の挨拶 中野区歯科医師会長 西村 誠
中野区保健福祉部長 金野 晃

13:20 区民で8020達成者の表彰

8020(ハチマルニマル)運動とは：80歳以上で20本以上の歯を残そうという運動。年齢が上がると共に少しずつ歯を失うとしても、失う歯の数が7、8本なら日常の咀嚼に不自由はないであろうということで、80歳になっても20本の歯を維持しようという8020運動が生まれてから今年で20年となる。その節目の年でいろいろな催しがあった。中野区歯科医師会は区民イベントの最初に8020該当者の表彰を行った。中野区歯科医師会会員から推薦のあった8020達成者は50名であったが、当日31名の出席予定者があり、西村会長から一人ずつ表彰状が手渡された。そのほか歯ブラシ、咬合力テストガム(OralCare製)、さらにグリコからお孫さんに喜ばれそうなチョコボールやクッキー類などのお土産をもらい、大変嬉しそうでした。付き添いとお見えになる方も多かったが、20本以上歯のある元気老人達であった。



13:45 演題：「あなたの命を狙う歯周病」講師 大竹 徹先生

- ・歯周病ってどんな病気？
- ・歯周病が引き起こすさまざまな悪さとは？
- ・進化を続ける歯周病の治療

<講演要旨>

歯と歯肉との付着機構が破壊されると、歯周病原菌およびその産物が体内に侵入する。これ等の進入により、歯周局所では生体の防衛反応としての炎症反応が惹起される。この炎症反応でいわば、細菌攻撃因子が産生される。従って、細菌そのものと細菌攻撃因子が毛細血管を通じ全身に流れ込むこととなる。このことにより、歯周病は全身疾患のリスクファクターになる得る。誤嚥性肺炎、糖尿病、心疾患、低体重児出産等と歯周病の関連が近年の研究により明らかになってきた。これ等のエビデンスから、1990年代後半には米国歯周病学会では、「Floss or Die」を合言葉に歯周病撲滅キャンペーンを行った。



従来の治療法では、骨の再生は困難であったが、新しい手術法で一部失われた歯槽骨再生は予知性を持って可能になってきたが、すべての部位が適応症ではなく、むしろ限定された部位についてのみ適応できる処置である。従って、一般的には歯周治療で病状の回復は可能だが、骨の再生を伴わない回復であり、文字通りの治癒ではないので、術後の徹底したブラークコントロールとメンテナンスが必須となる。また、歯周病はある程度骨吸収が進まないと臨床症状が出ない Silent Disease なので、その予防と発見のためには、なにより「かかりつけ歯科医」を持つことが重要である。

14:50 質疑応答

区民の8020達成者の表彰もあったため、83名の参加者で歯科医師会講堂は埋め尽くされた。講演内容にあったような日頃の口腔清掃に励み、かかりつけ医の元で口腔のメンテナンスを受け、これからは健やかな生活を送られますようお祈りして、午後3時10分に終了した。

参加された8020達成者と区民の皆様は大変満足そうで、啓発事業としては大成功の区民公開講座でした。